この人あり

インタビュー特集

旭泌尿器クリニック 院長 山口 旭さん

“MT3”で男性更年期障害を改善

不安感や不眠、やる気がでないなど、近年、男性のLOH症候群（加齢男性性腺機能低下症候群）が広く知られるようになってきた。男性ホルモンのテストステロンの分泌量低下が原因とされ、40歳以降はさまざまな体の変化が起こってくる。「内科的泌尿器科」という診療理念を掲げ、全人的な総合医療を行う旭（あきら）泌尿器クリニック（大阪市天王寺区）の山口旭院長に最新のLOH症候群治療について話を聞いた。（丹井 朗）

LOH症候群は、加齢やストレスをきっかけに男性ホルモン（テストステロン）が低下することで発症するといわれ、集中力の低下、無気力、不安感、イライラ感、うつ、疲労感、不眠などの精神症状のほか、身体症状として頭痛、めまい、多汗、筋力低下、勃起障害、性機能低下などが起こってくる。

「問診で症状を詳しく聞き、血液検査でテストステロン値などを参考にほかの疾患からくるものではないことを確認。男性更年期障害の診断を下しています」と山口院長。症状の背後に糖尿病や内臓疾患、睡眠時無呼吸、ホルモン異常といった疾患が隠れていることもあり、見極めが極めて重要になる。

「2週間に1回程度『エナルモンデポー』という男性ホルモンを投与します。これには薄毛・前立腺肥大の悪化などの副作用がありますが、前立腺肥大症があれば発毛効果が期待できる前立腺肥大症薬『アボルブ』を併用。さらに男性機能・勃起機能を高める前立腺肥大症薬『ザルティア』を加えると『アボルブ』の性欲低下という副作用を補えます」と山口院長。

それぞれの治療法のマイナス（副作用）をプラス（主作用）で補う「相補的かつ総合的な治療」を提唱。「メンズヘルス・トータルケア・スリーディレクションズ（男性特有の悩みを総合的にケアするための3つの方向性）＝MT3」としてシステムを確立し、症状改善に効果を上げている。

また「にんにく注射」「高濃度ビタミンC」「プラセンタ」などを加えることでアンチエイジングの成果も期待できる。

「男性ホルモンの投与は認知症の予防にも効果があります。80代の方に男性ホルモンを補充したところ、生活意欲が大いに増したという実証例が多くあります」と話す。

人生100年時代を迎え、いつまでも現役で社会に参加したいと願う高齢者は多い。山口院長は、男性更年期障害の治療を通して、こうした願いに応えるべく日々邁進（まいしん）している。

プロフィル

（やまぐち・あきら）奈良県出身。平成8年自治医科大学医学部卒業。奈良県立奈良病院臨床研修医（スーパーローテート）。10年、上北山村国民健康保険診療所所長。奈良県立奈良病院泌尿器科勤務。15年日本泌尿器科学会泌尿器科専門医認定。17年川上村国民健康保険川上診療所所長。22年医療法人光貴会しんいけクリニック理事長。26年旭泌尿器クリニック開院。日本泌尿器科泌尿器科学会専門医

旭泌尿器クリニック　〒543—0027　大阪市天王寺区筆ケ崎町5番52号
ウェルライフ上本町クリニックプラザ109　☎06・6770・0505
www.akira-uro-clinic.com